

第2期 中野区人権施策推進審議会

第2回目テーマ

「つながり」から考える人権

つながる自由・つながらない自由

話題提供者：小山委員・小川委員

審議会の流れ（全体時間2時間）

10分 挨拶（岸） イントロ（宮川委員）

10-15分 中野区より話題提供

10-15分 小山委員より話題提供

10-15分 小川委員より話題提供

10分 全体シェアリング

（休憩）

60分 対話セッション（岸委員）

区の手り組みについて報告

「孤独・孤立に関する手り組み」

「若者支援に関する手り組み」

▶▶▶ 「つながり」をつくることが解決…というわけではない。

(1) つながらない権利をどう保障するのか？



小山委員

つながらない権利とは何か？
つながることでのわずらわしさを感じる人、
つながるきっかけをつかめない人、
多様な人が暮らす地域で
当然のようにあったこれまでのルールや考え方で
つながりを求めることが
ルールの押し付けや排除につながる可能性がある。

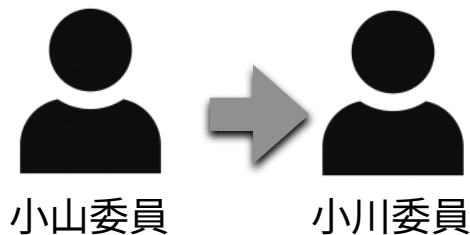
- ひきこもり支援・生活困窮者支援・外国籍支援など、生きづらさを抱えている人たちが生きやすい地域づくりとはどんな状態なのか？
- 地域活動をしている人が高齢になることにより、活動に参加しにくくなったり、できることができなくなることで、グループや活動から距離を置かれることもある。つながっていたのにつながりが切れてしまうこともある。
- 一方、つながりを求められることに煩わしさを感じる人もりう。
- 「何かの時に」つながれるようにするには？

日頃の相談事例から

議論の視点

- 今、求められるつながりのあり方とは？
- つながらないことを選んだとしても、最低限の「アクセス権」をどう保障するか？
- 「つながらない」ことの背景には何があるか？
- 地域の共同課題（枯葉問題・空き家問題など）にどう関与してもらうか？

（２）多様な「つながり方」に対応する仕組み・制度とは？



（１）若者が「つながない」ことを選ぶ
背景には何があるのか？

（２）若者が地域とつながりたいニーズは？
（障害者雇用や子育て・介護の支援 など）
その時に、どんな支援やしくみが必要か？

(1) つながらない権利をどう保障するのか？

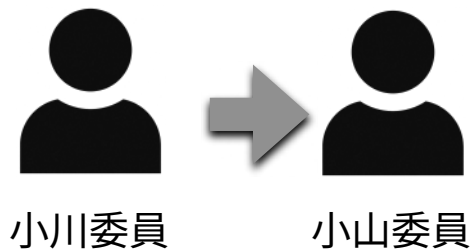


小川委員

世代や生活スタイル、価値観によって
異なるつながり方に対し、
どのような制度や仕組みが必要か？
(バーチャル空間などの事例も)

上からの支援と、
当事者が関わる仕組みのバランスは？

(3) なぜ、誰が「つなげれない」のか？



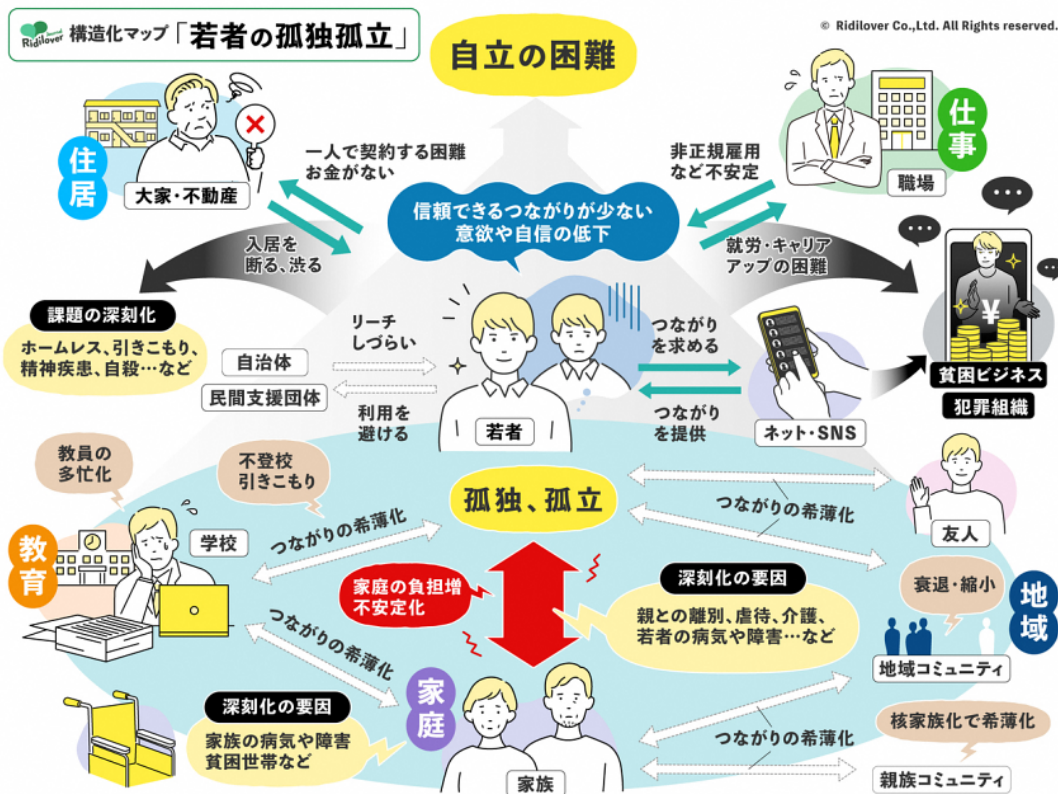
孤立・排除されやすいのはどのような人々か？
(高齢者、障がい者、LGBTQ、外国人、引きこもりなど)

背景にある制度的排除（例：住民票のない人、家族モデル、言語の壁）は何か？

支援する側はどういうジレンマを抱えているか？

(2) 多様な「つながり方」に対応する仕組み・制度とは？

小川委員



【自身の視点】

■区民・若者世代として

- [若者会議 | 中野区](#)
 - 第2期（2024年度）へ参加
- NPO法人の運営
 - NPO法人Curiosity（キュリオシティ）→高校生世代のキャリア教育、社会経験の場作りとして、社会起業体験活動を実施・運営

■区内在勤者・区内所在企業社員として

- [公益財団法人 キリン福祉財団](#)
 - 中野区内NPO法人への助成実績あり
- 地域活動への協賛：中野にとっての意義、弊社の企業理念など勘案し協賛を実施
 - 中野ランニングフェスタ（3月）
 - なかの東北絆まつり（10月）
 - 手話言語祭り（3月）
 - その他、中野通り桜まつり、中野駅前大盆踊り大会、ギネス盆踊り、中野にぎわいフェスタ、町会連合会Love'sWalk他に協賛
- （参考）自身の社内担当業務関連（人権に関連しそうな領域）：人権啓発、コンプライアンス、障害者雇用、育児・介護支援

■話題提供の参考となる資料（案）

- 若者の孤独・孤立（下記図表）：[つながりたいけど、つながれない。孤独孤立状態の若者を支える支援現場の課題](#)
- [「包括的な支援体制」の整備が市町村の努力義務になっているなんて知らなかったという人へのガイドブック](#)

※「議論の流れ」記載の内容からの話題の展開が、今のところあまりピンときていません。